

金文部 諸君

新潟市議会議事録

新潟市議會議事録

金文部 諸君に告ぐ

金文部 諸君！ 昔日友達多に今も異常な決心天下に立つ時が來たから吾々は職業とは勿へ少
積に立つて居た時の跡がいかず便局の洪水を死物狂ひに立ち漸く是附り終つて今日ボツと（息
する間も英へすに局長はいさぎり吾々が永年か友達を解雇したうだ。吾々は余り二ことに一時果
然としたが然し英杉（西村兩君）と始り如何りも矣。而も惡かつたのと言ふべく有るか？ 吾々は若し惡
い真の有うとするならば大江に改められたるに有のなきも立つてだ吾々も其の間に多少の失業や歎
息才有、嘆てあらう然一其の失業や歎息と言ふものは多くの場合本人には分離の二事が多い
ので、さて郵便局の山積毛尾附りて居て採り得るより氣立つてもまだ止むを得ない
ではせば、然うに村上局長は一人、勧告三へ手へにいきなり吾々が愛して居た人々を死刑に處
したうだ。全然葉眞諸君！ 昔日局長と集販手との地位をこな異にして居ての通信産
業に盡してゐる真では少しの事とは無い筈である局長であるとおこに依て斯の如き
暴虐から处分方法が許されてゐてあらうか。吾々が断じてのやうな惨酷極まるやうに
が許され得べき筈は無いのだ。若一斯の如き事新公然として行はれるとあるは吾々には
立憲の本義を無し法の精神を失ひはれたと云ふべきではなか、國家の重大犯人ですら刑の
執行を行ふ場合にリ様な云々の小たりから首を切るではない。子して少地直仕事に從
事して居る者等に付いて一考。正考へて与へる事無事に立つて失業群衆の立場に復す出了と